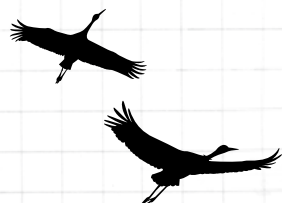


ボランティア活動が 夫婦の原点



中央大学でともに学んだ夫婦がことし卒業50周年を迎えた。本学卒の親子三代(直系)でもあり、10月25日のホームカミングデーで表彰された。創立130周年の年に慶事が相次ぐ、鶴精三(73)、靖子(73)夫妻を千葉県流山市の自宅に訪ねた。

OB OG 探訪

親子三代 鶴ファミリー

親子三代表彰は、多摩キャンパス9号館クレセントホールでの第24回ホームカミングデー開会式で行われた。今回15組のなかに鶴ファミリーの姿があった。

鶴夫妻の長男で、1998年商学部会計学科卒業の倫彰氏(40)と3人で並び、深澤武久理事長から表彰状を授与された。

靖子夫人の亡父、高橋正氏は

1927(昭和2)年に法学部(旧制)を卒業。靖子さんは1965年に文学部哲学科社会学専攻卒。精三氏は同年、法学部政治学科卒。鶴ファミリーの歴史は、中大の歴史でもある。

会場には学会(中大の卒業生会)各支部の支部旗が所狭しとはためき、親子三代表彰者を盛り上げる。「旗の多さにびっくりしました」(精三氏)、「支部旗を見て、中央大学の

団結力を感じました」(靖子さん)。晴れの日夫婦そろって、母校への思いを深めたようだ。



各地から集まった支部旗

「社会に役立つこと」目指した2人

2人が学生時代に共に関わったのはボランティア活動である。当時は「セツルメント」活動とか奉仕活動と呼ばれていた。

福岡県から上京した精三氏。家業の家具商は兄に継いでもらい、自ら

は公務員を志望した。「何か社会に役立つことをしたい」。九州からの寝台夜行列車で17~18時間に及ぶ長旅に揺られながら将来を考えていた。

1961年春、駿河台キャンパス(当時)の“新歓”で「カトリック研究

会」の看板が目にとまった。東京教育大(現筑波大)と神奈川・丹沢への合同1泊ハイキングとあった。「非信者にもかかわらず」入会しハイキングに出かけた。

研究会入会后、誘われて「東京カ



ホームカミングデーの親子三代表彰式、左から長男・鶴倫彰氏、靖子さん、精三氏。右は深澤理事長

トリック学生連盟」の勉強会の活動に参加した。活動では学生連盟所属大学の学生たちと活動拠点の母子寮を毎週訪問し、子供たちの勉強の手助けを行った。4年間継続して行った活動を通じて東大、慶大、日本女子大など多くの大学のメンバーと出会い、親交を深めた。

靖子さんはワンダーフォーゲル部に所属。精三氏とは別組織のボランティア活動を行う一方、カトリック研究会にも顔を出していた。キャンパスの部室で2人は顔を合わせるも「当時はお互い特に関心ありませんでした」と精三氏。

卒業後、精三氏は東京都庁に就職。都が千葉県内に設置している児童養護施設で2年間勤務し、本庁転勤になるのと入れ違いに靖子さんが同施設に配属され、2人の交際が始まっ

た。

靖子さんは在学中、中大杉並高で教育実習。卒業後は東京都社会事業学校で社会福祉の勉強をして保母の資格を取得、都職員に採用されていた。

2人の交際は4年続いた。その間、精三氏が職員健康診断で病気が判明して入院。療養中に靖子さんの献身的な看病があった。2人は精三氏が職場復帰した1971年11月に結婚。一途な愛を歌った「私の城下町」がヒットした年だった。

靖子さんはその後、長女、長男、次女の小・中学生時代、地域のガールスカウトやボーイスカウト活動に参加。ガールスカウトでは団委員長などを歴任、現在も地域でボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会役員を務める。自宅玄関先にはガール

スカウト入団申し込みの表示板が掲げられている。さらにはNPO法人のボランティアとして今も奔走する日々だ。

精三氏も靖子さんと同じNPO法人でボランティアとして活動し、公益財団法人、社会福祉法人の役員も務めており、ことし8月には地域の民生委員・児童委員を委嘱された。

中大カトリック研究会は多摩移転時に解散。精三氏は会の復活を目指して関係者に相談したが現在なお実現していない。その間、中大教授らによる「カトリックと文化」研究会に非研究者として10年間参加。2004年6月には「戦死者の追悼について」のテーマで話をした。先生たちの研究成果は、中大人文学研究所の研究叢書44「カトリックと文化」として出版されている。

「親子四代」に夢ふくらむ

閑静な住宅街で、大学時代を振り返る2人。靖子さんは2年生のとき、「チューデントカウンセラー」としても活躍していた。いわば学内の学生相談窓口。

地方出身の女子学生が一人暮らしの住まいに困っている。そう聞いた靖子さんが奔走し、修道院の紹介で、女性向きの安心安全で、手ごろな部屋代、2食付きの下宿を中央線沿線に見つけて担当教師に相談し、入居の際には付き添いもした。

「そうだったの、知らなかった」とは横で聞いていた精三氏。「面倒見のよさは、そのころからなんだね」と破顔一笑。今度は靖子さんが、はにかんだ。

子供3人、孫4人に恵まれ、長女の夫君は中大卒。長男倫彰氏が通った中学校長も中大卒。

「孫たちも中大に入ってくれたらね、親子四代になるでしょう。でも私たち、そのころ生きていないかもしれないわね」

精三氏が、靖子さんの心配を吹き

飛ばした。

「大丈夫、鶴は千年というじゃないか」

日当たりのいいリビングに、2人の笑い声ははじけた。



自宅でくつろぐ鶴精三氏(左)と妻の靖子さん

◎ 叔父も学んだ証

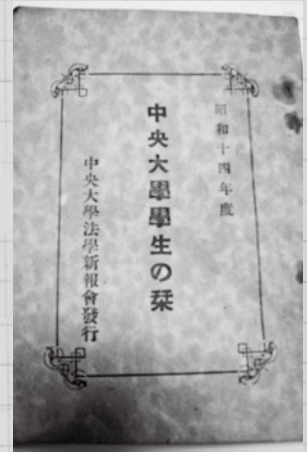
靖子さんは叔父3人のうち1人が父親と同じ中大卒、もう1人が中大専門部中退後戦地に赴き戦死。若くして戦死した叔父の遺品「中央大学専門部法學科生徒証」「中央大学學生の葉」を秋田県にある実家の蔵の中で数年前に発見。中大の先輩である父と叔父2人の供養になればと、三世代表彰手続きを思い立った。

◎ 親子で歩んだ道

鶴夫妻はホームカミングデーの帰路、京王線多摩動物公園駅へ向かった。多摩都市モノレール開通(2000年1月)前は大学最寄り駅の一つだった。長男・倫彰氏の通学路でもあった。アップダウンのある道のりで、若き日の親子を思い出していたらうか。



専門部法學科生徒証



中央大学學生の葉

中大生へメッセージ

「カトリックの勉強会で出会った他大学の仲間とは、いまでも交流が続いております。学生時代のボランティア活動は現在の夫婦の活動の原点であります。いまの学生さんたちに、学生時代に素晴らしい出会いがあることを願ってやみません」 (鶴精三氏)



卒業前に駿河台校舎中庭の「青年の像」前で記念撮影。左から3人目が精三氏 (本人提供)



文学部社会学専攻の仲間と卒業写真。靖子さんは前列左から2人目。中央は佐藤教授 (本人提供)

鶴夫妻が在学した 1961年4月～1965年3月の世相

1965		1964		1963			1962		1961	
10月	6月	10月	9月	12月	11月	3月	8月	7月	10月	5月
<p>■ 朝永振一郎氏にノーベル物理学賞</p> <p>■ プロ野球南海の野村克也捕手が戦後初の三冠王</p> <p>■ ビートルズの影響でエレキギターが大流行。ビートルズは翌年6月に初来日</p> <p>ヒット曲「柔」「愛して愛して愛しちゃったのよ」</p>		<p>■ 日韓国交正常化を定める日韓基本条約に調印</p> <p>■ 東海道新幹線開通</p> <p>■ 東京オリンピック開幕 (10日～24日)</p> <p>ヒット曲「お座敷小唄」「愛と死を見つめて」</p>		<p>■ プロ野球元南海の村上雅則投手が、サンフランシスコ・ジャイアンツに入団、初の大リーガー誕生</p> <p>■ 村越吉展ちゃん誘拐事件</p> <p>■ 米ケネディ大統領、凶弾に倒れる</p> <p>■ 日米間のテレビ宇宙中継成功</p> <p>■ 力道山、刺される</p> <p>ヒット曲「こんにちは赤ちゃん」</p>			<p>■ 堀江謙一さん、小型ヨットで太平洋横断</p> <p>■ プロ野球巨人・王貞治選手、一本足打法始める、2打席目に本塁打</p> <p>ヒット曲「可愛いベイビー」「王将」</p>		<p>■ 米国が有人ロケット飛行を成功させる</p> <p>■ 日本のバレーボール女子チームが欧州遠征で24戦無敗、「東洋の魔女」と呼ばれる</p> <p>ヒット曲「上を向いて歩こう」「スーダラ節」</p>	
 <p>朝永振一郎</p>		 <p>東京五輪開会式 日本選手団入場</p>			 <p>力道山</p>		 <p>堀江謙一</p>		 <p>坂本九 (敬称略)</p>	